

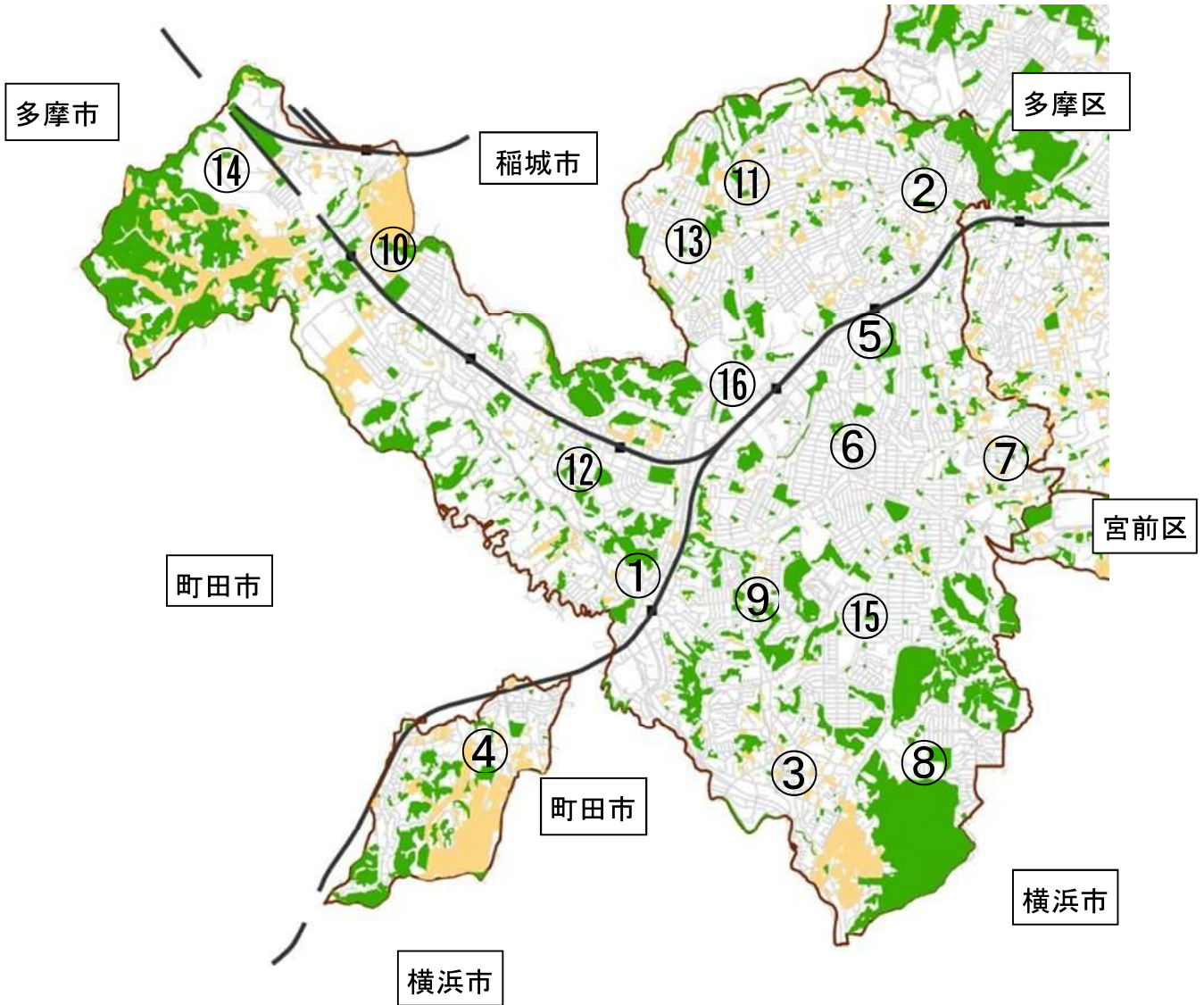
小学校の紹介

麻生区内川崎市立小学校 16 校の
地域との多様な関り、総合学習などを紹介します。

麻生区内川崎市立小学校のマップ No.①～⑬

(麻生区の緑の図にのせました)

No.	学校名	No.	学校名	No.	学校名	No.	学校名
①	柿生小	②	西生田小	③	東柿生小	④	岡上小
⑤	百合丘小	⑥	南百合丘小	⑦	長沢小	⑧	虹ヶ丘小
⑨	真福寺小	⑩	栗木台小	⑪	千代ヶ丘小	⑫	片平小
⑬	金程小	⑭	はるひ野小	⑮	王禅寺中央小	⑯	麻生小



小学校紹介 もくじ

マップ No.	学校名	ページ
①	柿生小	1, 2, 3
②	西生田小	4, 5, 6
③	東柿生小	7, 8, 9
④	岡上小	10, 11
⑤	百合丘小	12, 13
⑥	南百合丘小	14, 15
⑦	長沢小	16, 17
⑧	虹ヶ丘小	18, 19
⑨	真福寺小	20, 21
⑩	栗木台小	22, 23
⑪	千代ヶ丘小	24, 25
⑫	片平小	26, 27
⑬	金程小	28, 29, 30
⑭	はるひ野小	31
⑮	王禅寺中央小	32, 33
⑯	麻生小	34, 35

お寄せ頂いた小学校の紹介カードからは、各小学校がそれぞれの地域で、様々な工夫を重ねて、子どもたちの体験や学びが豊かになるよう努められていることがよくわかります。写真からは子どもたちのいきいきした様子が伝わって来ます。原稿を作成して下さった先生方に深く感謝申し上げます。

そんな学校の様子を多くの皆様に知って頂き、地域総がかりで子どもや学校を支えていく一助になればと学校紹介冊子を作成しております。どうぞご覧ください。

2026年3月7日 里山フォーラム in 麻生
編集担当 角南ゆり絵・石井よし子



川崎市立 柿生小学校

校長 支倉 圭太
児童数 852名

住所 〒215-0023 川崎市麻生区片平 3-3-1 電話 044-988-0019

(学校創立)
1873 (明治6) 年 8 月

(学区域)
片平1丁目4番
片平2~4丁目
上麻生
上麻生4丁目52~57番
上麻生5、6丁目
上麻生7丁目1~25番 27~32番,
34~38番 39番7号~40~44番

校歌

(昭和34年制定) 勝 承夫 作詞
平井 康三郎 作曲

- | | |
|--|--|
| <p>1 みどりの丘に山鳩の
歌がきこえる羽音がひびく
平和な柿生あかるく晴れて
すくすくのびるよ日にのびる
われらは強い子日本の力</p> <p>2 なかよくいつも元気よく
はげむ勉強きたえるからだ
光もなごむ林に里に
まるまる色づく禅寺丸
自律の気風も楽しくみのる</p> | <p>3 今年もかえれ空とおく
渡る小鳥に世界を思う
夢わく柿生心をそろえ
みんなで進むよ日に進む
われらは明日まつ日本の力</p> |
|--|--|



学校・家庭・地域 オール柿生のウェルビーイングをめざして



柿生小は、「学校・家庭・地域 オール柿生のウェルビーイングをめざして」をコンセプトに児童・保護者・地域の方々・教職員など、柿生に携わる全ての人に幸せを感じてほしいという思いを込め、教育活動を行っています。

歴史と伝統に支えられ、地域に愛されて育っている柿生小の子どもたち。今年も地域の方々や関係機関のご協力で、全学年が様々な体験活動を展開することができました。

1年生

- 生活科「たのしい あき いっぱい」の学習では、環境センターにある「緑の公園」にお弁当を持って、秋探しに出かけました。たくさんのどんぐりや色鮮やかな落ち葉などを見つけて喜んでいました。また、お世話になった2年生を招待して「どんぐりまつり」を行いました。ドングリごま・迷路・楽器・けん玉・的当てゲームなど工夫を凝らしたお店屋さんを開き、交流を楽しんでいました。子どもたちは、仲間と協力し、自分たちで一から作り上げていくことで、達成感を存分に味わうことができました。
- 9月、「のびのびファーム」で大根の植え体験をしました。まだまだ暑さの厳しい日でしたが、子ども達は元気いっぱいでした。ピンク色の大根の種を見て「かわいい!」「小さい!」「初めて見た!」と驚いていました。もらった種を大事そうに握り、畑に丁寧に植えました。また、12月にはその収穫体験もさせていただきました。大きく育った大根を力いっぱい抜き「大きすぎてビックリ!」「おでんにして食べたい!」と収穫した大根を大事そうに抱えて持ち帰りました。



2年生

- ・生活科で柿生のまちたんけんを行いました。今までに知らなかった公園や畑、お店など素敵な場所をたくさん発見し、柿生の町がもっと好きになりました。今年は何手黒川線のトンネル工事も見学し、トンネルの作り方や大きな重機を見せてもらいました。子どもたちは、トンネルが完成し、実際に通ることができるのを楽しみにしていました。
- ・5月にサツマイモの苗植え、6月に1年生の時に植えたジャガイモの収穫、11月にサツマイモの収穫とのびのびファームで苗植えや収穫の体験をしました。苗植えや収穫の仕方をボランティアさんに丁寧に教えていただきました。たくさんのジャガイモやサツマイモを収穫することができ、子どもたちは大喜びでした。



3年生

- ・総合の学習では、町たんけんを行い、子どもたちが自分たちの住んでいる柿生の町に目を向けました。ふだん何気なく見ていた場所や人に気づき、「こんなところがあったんだ」「この人は何をしているのかな」と、町への関心を高めていました。
 - ・町のお祭りや地域の活動を通して、柿生を盛り上げている人たちの存在を知りました。実際にインタビューを行い、町への思いや願いを聞くことで、「町のためにがんばっている人がいる」ということに子どもたちは気付いていました。
- さらに、お店や農業、警察、消防など、町を支えている人々についても学びました。身近な人に話を聞く中で、自分たちのくらしが多くの人に守られていることに気づき、柿生の町を大切に思う気持ちを深めることができました。



4年生



- ・社会科学習では、災害について学習をしました。地震が起きることで火災や水害などが発生し町に甚大な被害があることを学びました。

- ・総合の学習では、防災について学びました。社会科の学習で学んだ甚大な被害を出さないようにするためには、防災意識をもち、日頃から備えることが大切であることを学びました。
- ・学習したことを「地域の方に伝えたい」という思いで上麻生東町内会の自主防災訓練に参加し、調べたことをテーマ別に分かれ壁新聞にまとめ、掲示しました。

5年生

・4月はじめから「柿生の里クラブ」の方々に協力していただきました。春の竹の子掘りから始まり、何度も自然観察に行きました。「おっ越し山」「柿生の里」で里山の保全活動に参加させていただき、人の手が入ることで、豊かな自然が育まれていることを体感しました。今年度は、学習材を竹にしぼることで、竹の管理と植物の多様性の繋がりを考え、柿生に残された身近で豊かな自然に目を向けていく学習に取り組みました。竹を有効的に活用する方法について、お箸づくりや竹灯籠、竹炭など試行錯誤しながら、一人一人課題を決めて取り組みました。都心に近く交通の便が良い柿生のまちでも自然の魅力を実感することができました。



6年生

・総合的な学習の時間では、近年話題になっている「SDGs」について学習を行いました。そこで自分たちの力で地域や社会のために何か出来ることはないかと考え、「世界に届け！思いやりプロジェクト！」という活動を行いました。

ゲストティーチャーとして、アパレル企業の担当の方から話を聞く学習を通して、難民の方に服を届ける、「届けよう服のチカラプロジェクト」を知り、使わなくなった子ども服の回収に取り組みました。校内でイベントを企画したり、地域などへも回収の依頼を呼びかけたりすることで数多くの服の回収に成功しました。また、車椅子の材料になるアルミ缶やワクチンになるペットボトルキャップ、医療の行き届かない場所へ医師を派遣するための費用になる古本やCDなどの回収にも取り組みました。

地域や社会のために、自分一人の力では成し遂げることが難しいことも、仲間と協力し、地域などへも協力を呼びかけ、動くことが大切だということを学びました。さらにそのように動くことで自分の活動が少しでも地域や社会のためになるという貴重な経験をする事ができました。



学習室

- ・地域の夏菟太鼓の先生に来ていただき、「うさぎのもちつき」「柿柿太鼓」を教えてください、和太鼓体験をしました。太鼓をたたくことが大好きな子どもたちは、音楽や先生の掛け声に合わせてリズムよくたたくことができました。
- ・夏野菜の栽培では、ピーマン、ナス、ミニトマトを育てました。毎日、野菜のことを気にかけて、こまめに水をやったり、雑草をすすんで抜いたりしていました。大きく育った野菜を収穫し、食べることを楽しみに持ち帰りました。



川崎市立 西生田小学校

校長 樋口 彰
児童数 828名

住所 〒215-0001 川崎市麻生区細山 2-2-1

電話 044-966-5161

学校の創立

1864(元治元年)年	細山に寺子屋「真川堂」が開かれる
1875(明治8)年	香林寺本堂に細山分教場ができる
1892(明治25)年	尋常第二生田小学校として独立
1938(昭和13)年	川崎市立生田尋常高等小学校細山分教場となる
1941(昭和16)年	川崎市立生田国民学校細山分教場となる
1947(昭和22)年	川崎市立西生田小学校として発足
1960(昭和35)年	現在地に移転



校歌

中村 雨紅 作詞 海沼 実 作曲

- 1 雲一つない空のした
目にしむ緑の野や山に
お伊勢の森の風かおり
光あふれる西生田
日毎に栄える我が学校
- 2 小鳥よ花よ窓近く
希望豊かに胸を張り
いつでも楽しく学ぶわれ
明るく正しく元気よく
みんな仲よく伸びてゆく
- 3 名前も眺めも美しく
清く絶えない多摩川の
流れは世界に続く水
輝き仰ぐ人の世の
文化も平和もここに湧く

ああ 栄えある西生田小学校

きせつのことを つたえあおう

1年生は生活科で、身近な自然の違いや特徴を見つけるために、季節ごとに多摩美の森に行きました。

1回目は、春を探しに行きました。この森は、公園とは比べ物にならないほど広く、幼い頃から遊び場として親しまれてきました。子どもたちは、草や花がたくさん生えていたり、チョウチョやテントウムシがいたりすることに気がきました。「タンポポを見つけた。」「色々な色の花が咲いていて、きれいだったよ。」「チョウチョとおいかけてしてみた。」など思い思いの意見を交わしました。

夏探しでは、春とは違う森の様子に気がきました。「緑がいっぱいだね。」「セミの鳴き声が聞こえるよ。」「前にお母さんと来た時、ここでカブトムシをつかまえたよ。今日はいるかな。」などと話しながら夏をたくさん見つけました。また、暑い時には藤棚の下や木陰に入り、水分補給をしながら涼む姿も見られました。





秋探しでは、落ち葉やどんぐりをたくさん集めました。「秋には、落ち葉がたくさん落ちていて、落ち葉の海みたいだね。ザクザクして楽しいな。」「丸いどんぐりと細長いどんぐりがあるよ。形が色々あっておもしろいね。」「集めたどんぐりであそびたいな。」など秋の自然物を使って楽しく遊びたいという思いをもちました。また、地域の自然環境を守り、保全する活動をしている「麻生多摩美の森の会」の方々に秋になる木の実や、森で育てている植物についてお話しして頂きました。そのおかげで、わたしたちが遊べる森がつくられていることに気づき、「森を守る活動をしている人たちがいるから、自然がいっぱいなんだね。」という声が上がりました。



学級に戻ると、秋の自然物を使っておもちゃを作りました。どんぐりを使ってこまやめいろを作ったり、まつぼっくりを使ってけんだまを作ったり、ペットボトルの周りに落ち葉を付けて落ち葉ボーリングを作ったり…他にもたくさんのおもちゃが出来上がりました。さらにみんなが楽しめるように、けんだまのひもの長さを調節したり、どんぐりの量を変えてマラカスの音を変えたりと工夫しました。自分たちが作ったおもちゃをもっと色々な人に楽しんでほしいという思いから、最後は秋のおもちゃランドを開き、他のクラスと交流しました。

学校を飛び出して、自分の足と耳と目で学んだ子どもたちにとって、「麻生多摩美の森」はより一層思い出深い場所となったことでしょう。





西生田小学校は、明治8年の創立以来、地域に支えられ、子どもたちの学び舎として歩んできました。今年、創立150周年を記念し、11月に記念式典を開催しました。節目の年は、7月5日のタイムカプセル開封から始まりました。50年間眠っていたカプセルには、当時の子どもたちの夢やメッセージが詰まっており、半世紀を超えて届いた思いに胸が熱くなりました。

式典では、卒業生や地域の皆様と協力して完成したモザイクアートを披露。子どもたちは声や呼びかけで感謝を表し、会場を笑顔で満たしました。記念ソング「世界は笑顔で歌うのさ」は、未来へつなぐ象徴です。150年の歴史を受け継ぎ、笑顔で新たな一歩を踏み出してほしいと願っています。



7月5日 タイムカプセル開封



1975年、100周年時に、タイムカプセルに入れたもの(当時の職員が入れたのでしょう)、50年後のラーメンは、どちらも硬く、食べられそうでした。ウイスキーはこわくて飲めません???



卒業生・在校生・保護者・新旧職員、計1,848名の協力で完成したモザイクアート



子どもたちと教職員による校門の壁画制作



11月15日 150周年記念式典

1年生「協力パワーで空までとどけくじらぐも」



2年生「やさしさに包まれた町にしゅうた」



3年生「それぞれが大事 自然はみんなつながっている」



4年生「世界を救え！エコレンジャー！」



5年生「200周年につなげる未来への思い」



6年生「未来へつなぐわたしたちの挑戦」





川崎市立 東柿生小学校

校長 後藤智春
児童数 380名

〒215-0018 川崎市麻生区王禅寺東 6-3-1

電話 044-988-0017

〈学校の創立〉

1873(明治6)年 下麻生学舎が麻生不動院を
仮校舎にして始まる

(↓この間は学校のホームページの沿革史をご覧ください)

1947(昭和22)年 川崎市柿生国民学校下麻生
分教場が、「川崎市立東柿生小学校」となる

〈学区域〉

王禅寺西8丁目24, 25番40~43号

王禅寺東5丁目47番21~28号, 48~51番

52番3, 18~31号, 53~55番

王禅寺東6丁目

上麻生7丁目26, 33, 39番1~6号

下麻生11番

下麻生1丁目

下麻生2丁目1~11, 15~48番

下麻生3丁目

早野 (1150番を除く)

校歌 (東柿生) S.37.3.5 制定

勝承夫 作詞 平井康三郎 作曲

- 1 丘越え野超え 吹いてくる
風が教える 新しい
世界の文化 若い雲
進取の精神 東柿生
われらもたゆまず やりぬく子供
- 2 その名も薫る 禅寺丸
柿の色どり 美しく
平和の光 みちわたる
あふれる健康 東柿生
心をそろえて みんなで実る
- 3 大海めざす 鶴見川
いまは小さい われらにも
大きい明日の 夢がある
のびゆく学校 東柿生
仲良く楽しく 進もうわれら

6年生が里山で取り組んだこと

「里山から考える、私の自慢のふるさと」

1. 実践の概要

第6学年では、総合的な学習の時間(年間70時間)において、地域の里山を題材としました探究的な学習に取り組みました。学年目標である「一人一人が責任感をもち、楽しい学校を創っていく集団」の実現を目指し、児童が自ら課題を見だし、仲間や地域と関わりながら主体的に学びを進めることを重視して構成しています。

探究課題は「里山から考える、私の自慢のふるさと」とし、「自ら問いをみつけ、探究的な学びを通して新たな学びを深め続けられる子ども」の育成を目標としました。児童は、里山での体験や観察を通して問いを見だし、「課題の設定→調査・体験→整理・分析→再考→発信」という探究のサイクルを1年間繰り返しながら学びを深めていきました。

今年度は、総合的な学習の時間だけでなく、各教科と関連付けて里山と関わる教科横断的なカリキュラムをデザインしました。これにより、里山と総合という固定化された概念をなくし、様々な学習でもつながると考えたからです。

2. 学習のねらい

里山での体験や観察を通して、児童一人一人が主体的に課題を設定し、探究的に学ぶ力を育成することをねらいとしました。また、学習の振り返りを通して、自らの学びを調整し、次の学びにつなげる態度の育成を重視しました。

3. 学習の構成と展開

3-1 探究の進め方

児童は、里山と関わる中で自分なりの問いを見だし、課題を設定しました。その後、「課題の設定—調査・体験—整理・分析—再考—発信」という探究の過程を1年間繰り返しながら、学びを深めていきました。今年度は、総合的な学習の時間のみならず、各教科と関連付けて里山と関わるカリキュラムを構成し、里山を身近で実感を伴う学習の場として位置付けています。

3-2 筍掘り

4月には、学習の導入として筍掘りを実施しました。里山の自然に直接触れることで、里山が人の営みと深く関わりながら維持されてきたことを理解する機会としました。また、東京農業大学の鈴木教授および学生の協力を得て、里山の植生や管理について学ぶ時間を設け、専門的な視点から里山の価値を学びました。



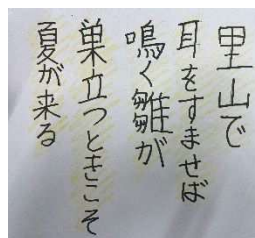
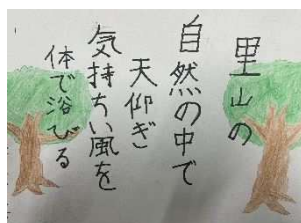
3-3 問いの設定と探究活動

里山に継続して足を運ぶ中で、児童からは、「里山にはどのような生き物がいるのか」「竹はどのように活用できるのか」「里山はどのように保全されているのか」「里山の歴史はどのようなものか」など、多様な問いが生まれました。児童はこれらの問いを基に、情報収集、整理・分析を行い、探究を深めていきました。

4. 教科横断的な取組

4-1 国語

国語科では、里山を題材に、四季に関する詩や短歌の創作に取り組みました。実際に里山に足を運び、見たこと・聞いたこと・感じたことを基に表現活動



を行うことで、言葉を選び取る力や表現する力の育成を図りました。

4-2 算数

算数科の「比」の学習では、里山にある木の高さを測定する活動を行いました。実際の木を対象とすることで、比の考え方が実生活でどのように活用できるかを実感させることをねらいとしました。

児童は、写真を基に比を用いて高さを推測し、算数の学習内容と実体験を結び付けて理解を深めました。学習場面では、「里山の木だ」と実感をもって学びに向かう姿が多く見られました。

4-3 理科

理科では、「地層」の学習において里山にある露頭を観察しました。実際に露頭を見ることで、教科書や資料だけでは捉えにくい地層の広がりや成り立ちを実感することができました。

観察を通して生まれた疑問から、自然事象を自分事として捉えながら理解を深める学習となりました。



4-4 図画工作科

図画工作科では、版画の題材として里山の自然や生き物を取り上げました。竹や木々、生き物などを、版画で表現しました。

児童は対象への思いをもって制作に取り組み、自然の特徴を生かした表現が多く見られました。



5. 他学年との交流

国語科と生活科の関連として、1年生を里山に招待する活動を実施しました。6年生は学習の成果を生かして里山を紹介し、1年生は冬の自然を探す体験を行いました。学年を越えた交流を通して、里山の魅力を共有する機会となりました。

6. 学びの発信

学年末には、総合的な学習の時間で探究してきた内容について、保護者を招いた発表の場を設け、児童一人一人が自らの学びを発信しました。さらに、里山フォーラムにおいて代表児童が1年間の学習成果を発表し、学びを地域へ還元することにしています。

7. 里山の保全活動

学校から徒歩圏内に里山が存在することは価値があります。本校では、これまでの6年生が大切にしてきた思いを受け継ぎ、今年度も下草刈りや植樹などの保全活動を行い、里山を次世代へ引き継ぐ意識を図っていきます。



8. 成果と今後の課題

本実践を通して、児童は里山を自然環境として捉えるだけでなく、自分たちの暮らしや地域と結び付いた存在として理解するようになりました。一方で、探究の深まりには個人差も見られます。今後は、個に応じた支援や学びの調整を一層充実させ、持続可能な総合的な学習の時間の在り方を探っていきたいと考えています。





川崎市立 岡上小学校

校長 齊野 裕子
児童数 234名

住所 〒215-0027 川崎市麻生区岡上 675-1 電話 044-988-8367

<学校の創立>

1873 (明治6) 年 岡登学舎開設



この間の変遷は学校ホームページ

～資料集おかがみ～

学校のうつりかわりを参照

1987 (昭和62) 年

川崎市立 岡上小学校開校

<学区域>

川崎市麻生区岡上 (全域)

校歌 S. 62. 10. 19

作詞 森久保 安美

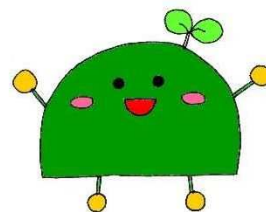
作曲 加藤 知典

- 1、歴史を語る 丸山に
今日も明るく 声ひびかせて
学ぼう 遊ぼう いきいきと
みがいて伸ばす ゆたかな個性
ふれあい楽しく そだつ友情
かがやけ 岡上 岡上小学校
- 2、光みなぎる 大空に
未来をひらく 夢はぐくんで
語ろう 歌おう 胸あつく
日本の明日に もやす命を
招く宇宙に おどる心を
はばたけ 岡上 岡上小学校

岡上小学校が大切にしている「丸山」^{まるやま}

本校に隣接して丸山という里山 (標高 55m) がある。この里山は地域の方のご厚意により、長年、岡上小学校の教育活動の中で自由に活用できる環境として位置づけられてきた。平成27年より、川崎市の市有地となり、岡上丸山特別緑地保全地区として保全管理されていくこととなった。専門家や地域の方々、保護者・子どもたちなどから広くアイデアを募り、どのような形で丸山を活用保全していくのかを考えてきた。現在、子どもたちにとっても学習の場として活用している。

丸山には、多様な植物の植生が見られる。さらに野鳥の美しい鳴き声が校舎内にまで響くことがある。丸山の麓には谷戸が広がり、学区には鶴見川も流れている。岡上小学校では、こうした丸山、田んぼ、畑などの自然を生かした体験活動を通して、心豊かな児童の育成を目指している。



創立 30 周年キャラクター
「丸ちゃん」も丸山を基に
して生まれました。
※岡上小学校は令和 8 年度
に創立 40 周年を迎えます。

丸山をフィールドにした豊かな体験活動

1. 6年生「たけのこ掘り（4月）」

6年生の学習では、一年間を通して総合的な学習の時間で丸山での体験活動を行う。4月は丸山に入り自然の観察をするとともに、タケノコを収穫する活動を行った。収穫したタケノコは、学校給食の献立に加えられ全校に振舞われた。子どもたちにとって身近な自然の恵みを食すことで、自然への興味・関心や大切にしようとする気持ちを培うことができた。



2. 1～5年生「丸山タイム（通年）」・委員会「丸山散策（通年）」

6年生以外の学年も丸山の自然に触れ、親しむことができるように、丸山で活動する時間を年間で4時間設けている。様々な生き物を見付けたり、自然の中で遊んだりするなど学年に合わせて活動を行っている。また、委員会活動（自然美化委員会）では、全校に丸山散策をする機会を提供した。



3. 有志「下草刈り（7月）」



7月には、地域の方や川崎市みどりの建設緑政局、PTA やOB会の方を含め下草刈り作業が行われた。専門的な知識と長期的・短期的計画のもと、竹の伐採や下草刈りなどの定期的な手入れをすることによって、丸山は、より良い自然環境としてこれからもずっと活用することができることを学んだ。

4. 5年・6年「総合的な学習の時間（通年）」

6年生の総合的な学習の時間では、和光大学教授、堂前先生と一緒に丸山の散策をしながら、貴重な動植物について教えていただき、豊かな自然を守っていくことの大切さについてお話していただいた。体験したことを基に、子どもたち一人一人が課題をもち解決していくような学習を行ってきた。体験や活動から学んだことをまとめ、1月の「ふれあい発表会」では、5年生の子どもたちやお世話になった地域の方々、保護者の方々に発表する機会を設けた。また、5年生の学習でも、丸山（里山）についてや生息する動植物について教えていただき、6年生の丸山保全学習につなげていく。

子どもの成長から

岡上の地域素材を生かした豊かな体験活動を通して、子どもたちは豊かな学びや豊かな心を育むことができている。自然や生命の尊さを実感するだけでなく、友だちと協力し合いながら取り組むことの良さを感じることができるこのフィールドを、未来へとつないでいきたい。



川崎市立 百合丘小学校

校長 長嶺 祐介
児童数 762名

住所 〒215-0011 川崎市麻生区百合丘 2-1-2 電話 044-966-3550

<学区の創立>

西生田小学校より分離独立し
1965(昭和40)年開校

<学区区域>

高石4丁目
高石5丁目1～5、16～22番
百合丘1, 2丁目
万福寺2丁目4～21番
万福寺3丁目12番
万福寺4丁目1～3番

校歌

<p>1 明るい風が 吹きわたる 緑の丘に 美しく 広がる校庭 高い窓 ここよ明日の日に 咲き開く</p> <p>2 文化の花の 育つところ 名も百合丘 百合丘小学校</p> <p>3 香りも清い 白百合を 校旗に高く 誇らしく 理想と仰いで 私たち 進め歌声も 高らかに 宇宙の世紀 称えながら おお百合丘 百合丘小学校</p>	<p>2 日本の歩み そのままに 日に日に伸びる 川崎の 希望をになって 私たち みんな健やかに 朗らかに 集まり学び 励むところ おお百合丘 百合丘小学校</p>
---	--

<たのしい あき いっぱい> (1年)

1年生は「たのしい あき いっぱい」の生活科の学習で、鶴亀松公園へ秋探しに行きました。秋の自然と関わる活動を通して、秋の草花や樹木の様子から季節の変化に気付き、自然を使って遊ぶ楽しさを味わいました。見つけた秋、木の実や色付いた葉っぱなどを拾い、秋のおもちゃを作ったり、もっと楽しく遊べるように作り方や遊び方を工夫したりして、学習発表会につなげました。



<百合丘のまちの すてき、見つけたよ!> (2年)

2年生は生活科の学習で、百合丘のまちを歩きました。児童が普段遊んでいる公園では、草花のきれいさ、植物の世話をしている人に気付きました。緑地では、高い木々の間の道に入って、その静けさに驚き、草木の様子や生き物について話をする姿が見られました。自分たちが暮らしている百合丘のまちの自然を新しく発見し、愛着をもつことができました。



<町のひみつ みーつけた！>（3年）

3年生は総合的な学習の時間で、百合丘小学校の素敵なおとこや良いところを見つけました。百合丘小学校のために働く人にお話を聞くことで、いろいろな人が自分たちのために働いてくれることがわかりました。百合丘小学校60年の歴史や、学校に咲くヤマユリについて調べることで、自分たちの知らなかった学校の魅力について知ることができました。



<自分の命は自分で守る>（4年）

4年生は総合的な学習の時間で高石町会のみなさんから災害についてのお話を聞き、自分でできる防災について考えました。新聞紙を使った食器づくりや防災トイレの設置方法・使い方、けがをした人を運ぶ担架づくり体験、防災クイズなど、災害が起こる前から備えることの大切さを学びました。災害が起きた時に街にはどんな危険な場所があるのか、家庭の防災リュックの見直しなど、命を守るために自分たちにもできることを考えました。



<自然環境を守ろう！>（5年）

5年生は総合的な学習の時間に環境について学習し、屋上菜園で野菜を育てました。地域の方に「どんな野菜を育てることができるか」を教えてもらい、その中から枝豆と小松菜を育てることに決めました。土づくりからお手伝いいただき、種をまき育てていきました。収穫した小松菜は、家庭科の調理実習の食材として使いました。野菜を育てる活動を通して、自然環境を守る大切さに気づき、さらに調べたことについて自分の考えを表現しました。



<そうぞうしよう 未来の自分>（6年）

6年生は図画工作の学習で、百合丘の街並みから、自分のお気に入りの風景を絵で表しました。お気に入りの場所を決め、その場所の写真をGIGA端末の写真機能を使って撮影する活動や、思い出を共有する活動を通して、お気に入りの場所をどのように表現すればいいかを考えました。描いていく中で、その場所でのエピソードを話してくれる子もいて、地域への思いが感じられました。





川崎市立 南百合丘小学校

校長 福岡 雄二
児童数 810名

住所 〒215-0017 川崎市麻生区王禅寺西 1-26-1 電話 044-966-6376

〈学校の創立〉

昭和 44 年 11 月 22 日

百合丘小学校より分離独立し開校

(学校ホームページをご覧ください)

〈学区域〉

王禅寺西 1~4 丁目

王禅寺東 1 丁目 1 番 5~25 号, 2~17 番, 19 番

王禅寺東 2 丁目 1~12 番, 13 番 1~17 号, 14 番

王禅寺東 4 丁目 1 番

上麻生 2 丁目

高石 5 丁目 6~15, 23~28 番

高石 6 丁目

東百合丘 4 丁目 34, 35 番

百合丘 3 丁目

校歌

サトウハチロー作詞 渡辺浦人作曲

1. 肩をならべて 仲よいかよい
毎日正しく 学ぶはわれら
空の青さを よろこびたえ
心にみどりを かさねるわれら ※
2. 声をあわせて 楽しくうたい
からだをきたえて 進むはわれら
枝の小鳥と 言葉をかまし
花にもやさしく ささやくわれら ※
3. 日ごと日ごとに ひろがる希望
あかるい笑顔で はげむはわれら
胸の願いを つらぬき通し
たがいに規律を まもるはわれら ※

※われらの母校 南百合丘

かがやく かがやく 南百合丘

☆やすらぎの森って何？

南百合丘小学校には、校庭の外周の南側斜面、および東側斜面に自然観察の場「やすらぎの森」があります。約 120 種類の豊かな植生を基本にしなが生き物が住む環境を作り、子どもの探求心を刺激する「不思議な森」にすることを目的として、創立 40 周年記念事業の中で造られました。下草を刈り、木を植え、様々な植物や昆虫が共生する自然観察の場として活用しています。

現在、維持管理のために保護者ボランティアや施設開放団体による年 2 回の整備作業を行っています。今年度より「やすらぎの森見守り隊」というサークル活動が始まり、月 1 回程度、枝の選定や樹木調査等を行っています。まだ、わずかな人数での活動ですが、課題となっていた「やすらぎの森」の維持管理の解決策としてサークルの広がり期待しています。この南百合丘小学校の特徴の一つである「やすらぎの森」を大切に守り続けていきたいと考えています。

本校では、この「やすらぎの森」を活用した学習に取り組んでいます。1年生の生活科「季節の学習」と3年生の総合的な学習の時間「学校の『すてき』を調査する学習」の様子を紹介します。



☆1年生 生活科

「あきの きらっと☆たんけんたい」

1年生では、季節の学習で「やすらぎの森」を活用しています。入学して間もなくの学校探検を終えた後、「やすらぎのもりってどんどころなのかな。いってみたいな。」という声が子どもたちから聞こえてきました。そこで、6年生と一緒に「やすらぎの森」へ行き、夏を探しました。初めて入る「やすらぎの森」で、夏を感じたりいろいろな木や植物を見つけたりすることができました。その後も、虫さがしに行ったり、秋を探しに行ったりしました。「こんなにどんぐりがあるよ。」「きれいなまつぼっくりを見つけたよ。」「きれいなはっぱを見つけたの、見て見て。」「はっぱをふむと、音になるよ。」と、五感を使って秋を感じていました。子どもたちは「やすらぎの森」に愛着をもち、休み時間にも「あきを見つけにいってくるね。」と活動する姿が見られました。「やすらぎの森」は、子どもたちにとってとても身近であり、学年が上がっても、さまざまな学習で活用できる大切な場所だと感じています。



☆3年生 総合的な学習の時間

「南百合丘調査隊」



総合的な学習の時間に「南百合丘調査隊」として地域調査を計画した際、子どもたちから最も声が挙がったのが「やすらぎの森」でした。各クラスで何度もやすらぎの森へ入り、見つけた疑問から『やすらぎの森の魅力』について個々に課題を決めて学習をスタートしました。やすらぎの森見守り隊の方々を講師に招き、植物の実を潰してレモン汁で色を変える科学実験のような遊びも体験しました。自然の不思議さと面白さに触れ、森の新たな魅力を発見しました。教えてもらった遊びをヒントにさらに遊びを楽しむことができました。

この学習を通し、子どもたちは地域に、誰かのために尽力している大人がいることを知るきっかけとなりました。地域の一員として自分たちができることを考え、学校から地域へと目を向け、里山の豊かさを守り継ぐ心を育んでいきたいと考えています。

これからも南百合丘小学校の宝である「やすらぎの森」を本校の特色ある学習の場として活用していきたいと考えています。



川崎市立 長沢小学校

校長 中西 憲子
児童数 572名

住所 〒215-0012 川崎市麻生区東百合丘 2-24-7 電話 044-954-5144

〈学校の創立〉

1976(昭和51)年 川崎市立長沢小学校として
南百合丘小学校、生田小学校より分離

〈学区域〉

長沢3丁目18～20番

長沢4丁目

南生田2丁目21～27、29～31番

南生田4丁目19～25番

王禅寺東1丁目1番1～4号、35～38番

東百合丘1～3丁目

東百合丘4丁目1～33、36～49番

校歌

大澤功一郎 作詞
西崎嘉太郎 作曲

みどり豊かに 空青く
菜の花ゆれる 長沢に
光り輝く わが母校
ああ 明るく学ぶ
われらの 長沢小学校

鎮守の森に こだまして
楽しくはずむ 歌声は
丘にそびえる わが母校
ああ 仲よく進む
われらの 長沢小学校

夢は大きく はばたいて
学びの庭に 幸せの
心あふれる わが母校
ああ元気に伸びる
われらの 長沢小学校

■長沢小学校

〈取り組み項目〉

生活科・総合的な学習の時間

2年「すてき！はっけん！もっと大すき長さわの町」(生活科)

生活科「すてき！はっけん！もっと大すき長さわの町」で、長沢の町を探検し、地域の人々と関わる活動を通して、長沢の町や人々に親しみや愛着をもって生活しているとする姿につながっていきました。

町探検で見つけた「すてきのかげら」をさらに輝かせるには、その場所に何度も足を運び、そこに携わる人に話を聞くことが必要だと気づきました。インタビューしたことを伝え合い、話し合う中で、「長沢のまちっていいな」「長沢の人っていいな」という「すてき」を一人一人が感じていました。「ありがとう」の思いを手紙で表したり、「すてき」を広げるためにポスターを作成したりするなど、「長沢の町や人が大すき」という思いが育まれる学びとなりました。



3年「心も地域も菜の花でいっぱいになろう」(総合的な学習の時間)

総合的な学習の時間「心も地域も菜の花でいっぱいになろう」で、長沢小学校と菜の花の関係性を調べることを通して、地域の人たちが大切にしてきた菜の花の存在を知り、自分たちもその思いを受け継いでいきたいという思いが育まれてきました。

学習を進める中で、菜の花と長沢小学校は家族のような親友のような、なくてはならないものであるということに気がきました。子ども達は、地域の人たちに感謝の気持ちを伝えたいと考え、50周年式典で劇や歌、呼びかけで伝えることにしました。

当日は、地域の方から教えてもらったことから考えた歌詞で作った歌を歌ったり、長沢小学校ができた時の様子を劇にして伝えたりしました。「川崎中を菜の花でいっぱいになりたい」という思いから、来賓の方に菜の花の種を配りました。今後は、自分たちで菜の花を育て、心も地域も菜の花でいっぱいにしていきます。

**4年「そなえて安心・安全バッチリ！」(総合的な学習の時間)**

総合的な学習の時間「そなえて安心・安全バッチリ！(防災)」で防災について探究しています。自然災害の怖さを体験したことを通して備えることの大切さに気づき、共助の視点から「みんなで助け合えるまち」にしたいとまちづくりに目を向けました。

「ちいきのちからシート」を活用することで、まちの現状を把握し取組を考えていきました。災害時に助け合うためには、日頃からコミュニケーションをとることの大切さをまちに広めていきたいと思いをもち、50周年式典で地域の方に劇を通して伝えることができました。

**5年「長沢ecoプロジェクト」(総合的な学習の時間)**

総合的な学習の時間「長沢ecoプロジェクト」で、社会の問題とSDGs 17の目標に触れ、環境問題を中心に、その背景や原因について調べたいという思いをもちました。自分たちで追究する課題を設定し調べていくとともに、八ヶ岳自然教室で生ゴミから堆肥を作る体験をしたり、その堆肥を使った農業について学んだりしました。

自分たちで収集した情報や、いろいろな方から聞いたこと、体験したことをもとに、自分たちが取り組めることとして、段ボールコンポストにチャレンジしました。家庭から生ゴミを持ち寄り、投入した生ゴミの重さと温度、その日の様子を記録する活動を毎日行いました。これまでは捨ててしまった生ゴミが、堆肥となって生まれ変わることを体験を通して知り、自分たちの身近な環境を守ることの大切さを実感することができました。





川崎市立 虹ヶ丘小学校

校長 井上 恵子
児童数 125名

住所 〒215-0015 川崎市麻生区虹ヶ丘 1-21-2 電話 044-987-1579

<学校の歴史>

1976（昭和51）年4月1日

<学区域>

虹ヶ丘 1～3丁目

早野 1150番

王禅寺 228～232 240～320 325～370 399～401

407～422 524～561 563 565～567

930～971 977 981～1022 1028

1037～1058 1063～1177

1180番 4,6号 1181番地

校歌

- 1 大空高く 風かおる
みどりの多摩に われら いま
真理の道を 学びゆく
ああ 虹ヶ丘小学校
若い力に 誇りあれ
- 2 山影遠く 澄みわたる
文化の丘に われら いま
楽しく集い 育ちゆく
ああ 虹ヶ丘小学校
清い心に 誇りあれ
- 3 輝く虹を 仰ぎみる
ひとみは燃えて われら いま
未来の望み 築きゆく
ああ 虹ヶ丘小学校
開くあしたに 誇りあれ

「虹のしあわせ ずっと続くよ どこまでも」

虹ヶ丘小学校は、今年（令和7年）度、創立50周年を迎えました。虹ヶ丘小学校のよいところを尋ねると「教室からいつも見える早野の森が大好き」と答える児童が多くいます。どの学年でも、地域の身近な学習材としての「早野」にかかわる内容を積極的に取り扱っている成果といえます。

1年生は、早野でサツマイモを育てさせてもらい、収穫したサツマイモでさつまいもスティックづくりを行いました。火を加えると鮮やかな黄色に変化するサツマイモの様子に喜びつつ、秋を感じながら味わいました。2年生は、国語「ふきのとう」を読んでうまれた「竹の下の雪はどうして解けないのだろう」という問いを解決するために早野の森へ足を運びました。早野の森に群生する竹の下で「竹の下には、葉がいっぱい落ちていて、日が当たらない」「だから涼しいのかも」と多くのことに気付いていました。

6年生は、総合的な学習の時間で「早野の森👁️新発見」という単元を立ち上げ、一年間を通して早野の里山にかかわる学習に取り組んでいます。12月には、早野聖地公園の木々に手作りの木名板を設置させていただきました。学習の成果を生かし、木々の名前を自ら書き、自分たちの手で取り付けるという初めての企画でしたが、木の名称だけでなく、調べてわかった特徴や花言葉、イラストなどを書き加える工夫もしました。ご協力いただいた里山ボランティアの皆さんからは、ものづくりの楽しさや達成感を感じられる機会をいただき、感謝しています。



令和6年度の全校児童でアイデアを出し合い、「創立50周年のスローガン」を決めました。



50周年記念キャラクター「タトルン」

創立40周年のときに誕生した「ニジピョン」のお友達として、50周年を記念して、新たな仲間「タトルン」が誕生しました。全校でアイデアを出し合って学校で飼っている亀の「タトル」をモチーフにキャラクターにしました。背中の3本の木は、早野の森をイメージしていて、ネックレスはニジピョンとお揃いになっています。子どもたちが考えたデザインを、元PTA会長の三ツ橋さんにキャラクター化していただきました。



11月8日(土) 創立50周年記念式典

今まで、この日のために、子どもたちは多くの準備や練習に励んできました。

来ていただいた方々にもその準備が伝わったことと思います。

これからも、虹ヶ丘小学校の子どもたちを、そして、虹ヶ丘小学校をよろしく願っています。



来賓の方々が会場を去られた後に、子ども実行委員長からの「みなさん、お疲れ様でしたー！」の呼びかけに全校児童は歓声で応え、虹っ子のみんなの安堵と達成感が会場いっぱいに響いていました。

子どもたちは、この式典を通して、今まで虹ヶ丘小学校に関わってくださった全ての方への「感謝の気持ち」や「学校大好き」の気持ちが大きく、膨らんでいったことと思います。



これをご覧になっているすべての方とともに・・・

この先の50年。創立100年に向けて、新たなスタートの一步を踏み出していきましょう。